



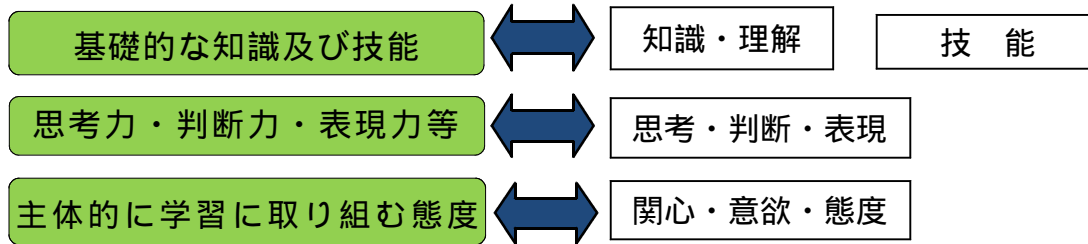
竹林の風

新しい学習評価

中教審教育課程部会がまとめた児童生徒の学習評価の在り方についての報告（平成22年3月24日）において、児童生徒の新しい学習評価の観点が見られました。学校教育法第30条2項に示されたところのいわゆる学力の3要素や新学習指導要領の趣旨をふまえたものとなりました。

【学力の3要素】

【新しい学習評価の観点】

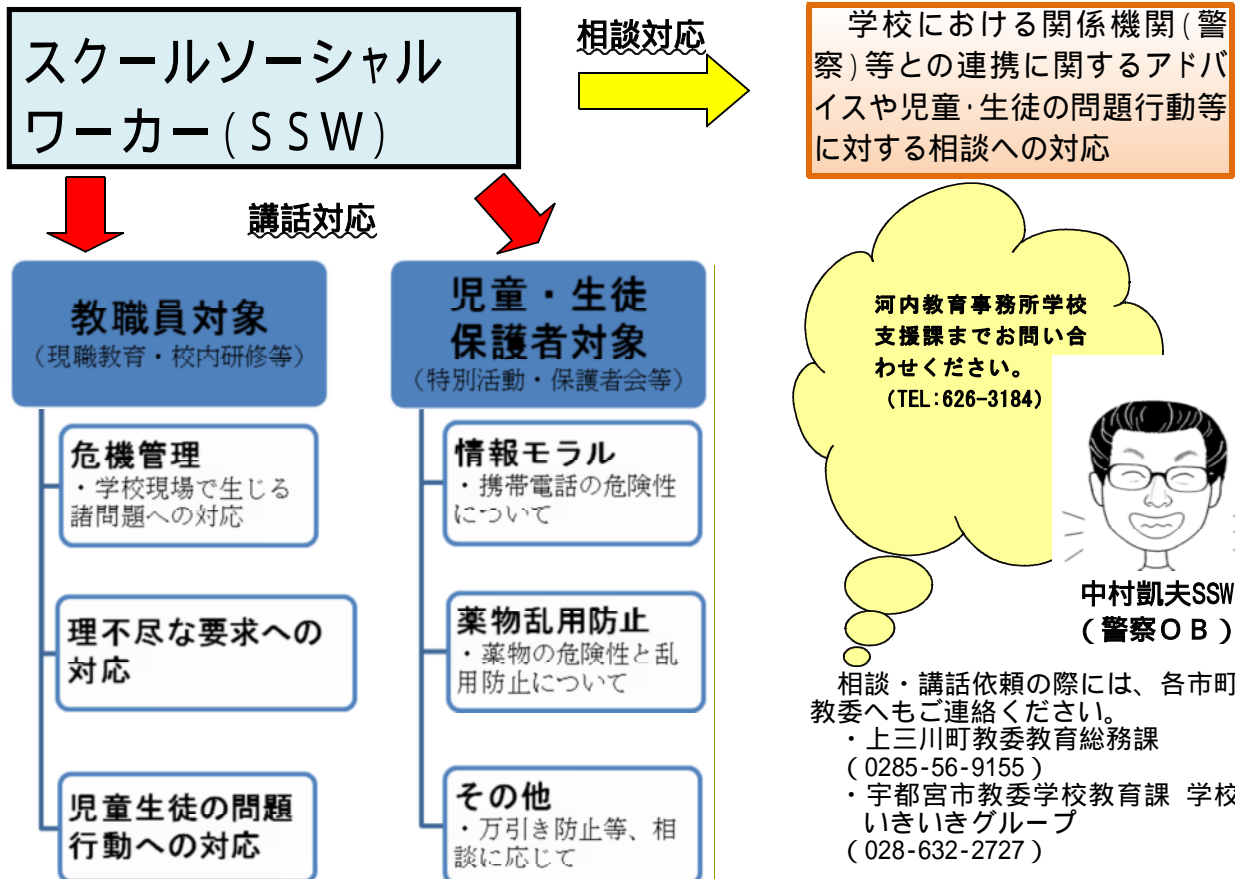


さらに、学習評価及び指導要録についての文科省通知（平成22年5月11日）において、指導要録の参考様式などが示されました。同通知は、特別活動にも評価の観点を設定することなど、いくつかの留意点にも言及しております。

栃木県教育委員会では、新しい学習評価についての資料や指導要録の手引などを作成し、全面実施への支援をさせていただき予定です。

SSWによる学校問題解決支援を行っています

児童・生徒指導の充実のため、各学校の希望に応じ、学校支援をいたします。



* 学校における社会教育主事有資格者の活躍を *

社会教育主事有資格者は、学校・家庭・地域連携の推進役としての様々な知識や技術をもっています。

《活動事例》

ネットワークを活かす
地域の専門家や関係団体等の教育力を学校教育へつなげます。

ワークショップの技法を活かす
PTA研修や現職教育などで、参加者の意欲や気付きを大切にしながら研修を行っています。

情報発信の工夫

学校のきまりや授業内容など学校の情報を一本化した「学校ガイドブック」を作成し、より分かりやすく伝えています。

今年度、宇都宮大学で行われた社会教育主事講習では、小中、県立学校13名、行政職員5名の計18名の方々が修了されました。

また、「社会教育主事ステップアップ研修」では、高千穂大学の

松田道雄教授から「社会教育主事有資格者として学校・地域でできること」と題してご講演をいただきました。

ご講演の中で、

「学級通信に地域情報コーナーを入れる」

「地域の仕事を学ぶ体験ブースづくり」

「地域マップを作り地域に掲示したり配布したりする」

などの、今後の活動に生かせそうな具体的なアイデアをいただきました。

今後も、地域に開かれた学校づくり、より豊かな教育活動を推進していく一つとして、社会教育主事有資格者の活動やネットワークづくりを



高千穂大学人間科学部

松田 道雄 教授

教科書で学力について確かめてはどうでしょう

「基礎学力を問う」

東京大学 学校教育高度化センター編
(東京大学出版会発行 2009年)

この本は、東京大学教育学研究科に現在、元所属した教授陣7名の共著です。

本のねらいは、エピローグに秋田喜代美教授が『学力問題の議論の構造と現在の課題を俯瞰的に整理し、さらにそれを超えてこれからの時代への展望を出そうとしたものである』と述べていることにつきます。1章担当の佐藤学教授が、学力の問題として、「学力低下」「学力格差」「学力の質」の3つを取り上げ、学力について考え方や問題点を端的に分析し、今後の学力問題への課題について6項目を上げていて、私たちの混乱を整理してくれています。5章担当の小川正人放送大学教授は、「学力政策を支える教師の労働実態と課題」と題して、「教育の質」の問題を、教職員の勤務実態から分析し、教員が多忙になる理由を整理して、学力の問題を教職員の労働実態からみた課題として取り上げていて共感できます。6章担当の市川伸一教授は、今言われている「教えて考えさせる授業」がなぜ必要なのかについて、背景を考察し、その授業のあり方を提案しており、「ゆとり教育」と言われた時期に陥っていたとされる「教えないこと」のリスクを的確に示しています。

私たち教職員は、いま教育改革の真っ只中にいます。今の教育で求められているものは、多種多様ですが、学校にとっての第1の目的は、学力を子どもたちに身につけさせることです。その学力や学力に対する課題について、教職員がきちんと整理して理解し、自分の学校における方向性を検討し、そのことを踏まえて、個々の教職員が授業等で実現することが大切です。この本は、その道しるべとなるものであり、じっくり読んで是非、学力観の構築とよりよい授業に取り組んでほしいと考えています。